

# 令和2年度 カキ類養殖試験報告書

2021年5月  
尾鷲市水産農林課

## 【マガキ天然採苗試験】

### 大曽根

5月に25基、6月に20基を岸壁に設置→8月、9月に回収  
採苗器1基（プレート30枚）あたり種苗2,268～7,098個、平均4,366個採苗  
45基で計196,476個採苗（R1実績 32基で計123,480個）

### 曽根

5月に1基を岸壁に設置→9月に回収  
採苗器1基あたり種苗5,775個採苗（R1実績 1基で5,040個）

### 行野

5月に2基を岸壁に設置→9月に回収 採苗器1基あたり種苗4,473個採苗

### 古里

5月に2基を岸壁に設置→9月に回収 採苗数未測定



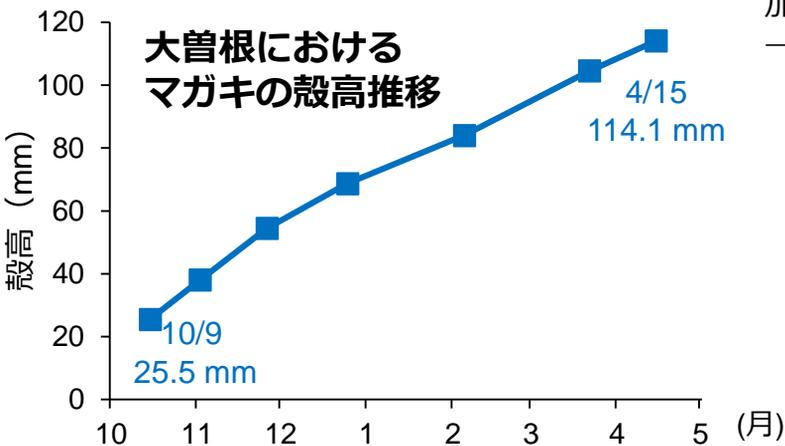
## 【マガキ養殖試験】

### 大曽根

出荷サイズ 5,244個（R1実績 3,944個）  
出荷サイズ率 2.7%（R1実績 3.2%）

### 曽根

2021年1月までに全滅  
ヒラムシ類やレイシガイ類の食害を確認  
加えて、マガキの成長が悪かった  
→水温や餌環境も不適であったと推察



## 【マガキの成長写真（大曽根）】



## 【新海域での試験結果】

古里

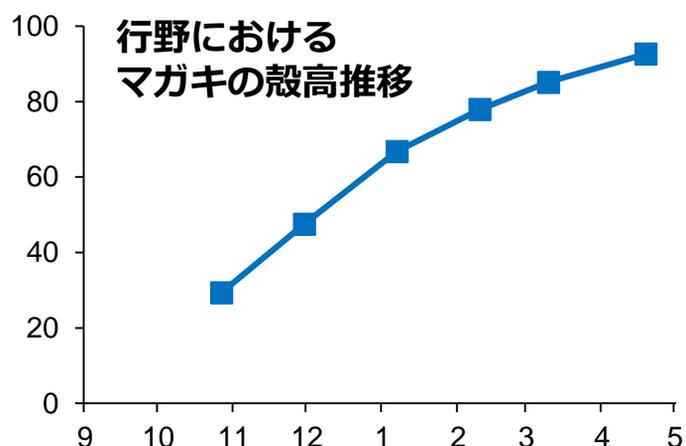
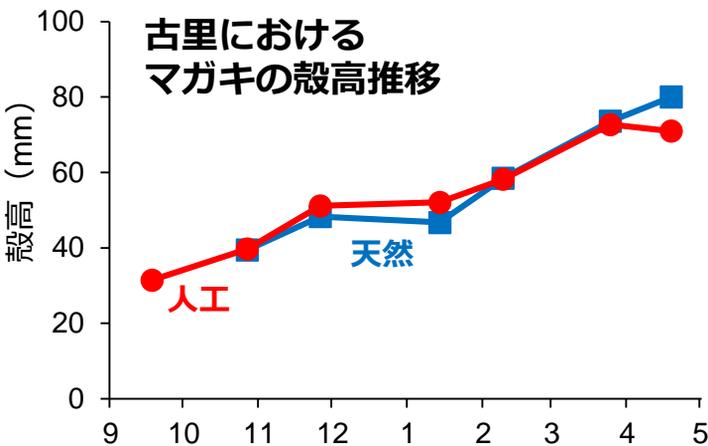
人工種苗 9/18時点1,000個→4/15時点268個（生残26.8%）

天然種苗 採苗器2基→4/15時点200個

→人工・天然で成長に差は無かったが、人工の生残率×→両種苗とも身入り良好

行野

天然種苗 採苗器2基→3/10時点866個、身入り良好



## 【淡水浴の効果試験】

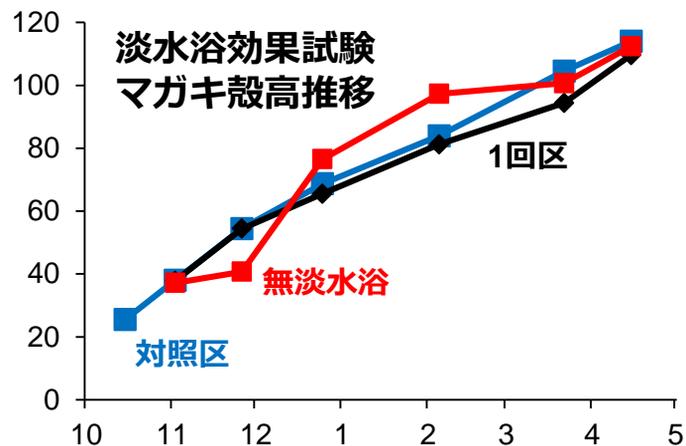
ヒラムシ類の対策として淡水浴を実施している  
→淡水浴の副次的効果として、マガキの成長・殻への付着物量への淡水浴の影響を試験

大曾根にて3条件で試験

- ・対照区（淡水浴 採苗時1回、採苗後1回）
- ・1回区（淡水浴 採苗時1回）
- ・無淡水浴（淡水浴 未実施）

淡水浴の回数による成長の差は見られなかった  
→淡水浴はマガキ種苗の成長に悪影響は無い

条件によって付着物量の差は認められなかった  
→養殖初期の淡水浴は殻への付着物量減少に効果は無い



## 【イワガキ養殖試験】

曾根

下記3種類のイワガキ種苗を養殖試験

- ① H28.10 ヤンマー人工種苗(～H31.04)
- ② H28.10 採苗器設置  
H29.03採苗の天然種苗(～H31.09)
- ③ H29.10 採苗器設置  
H30.06採苗の天然種苗

